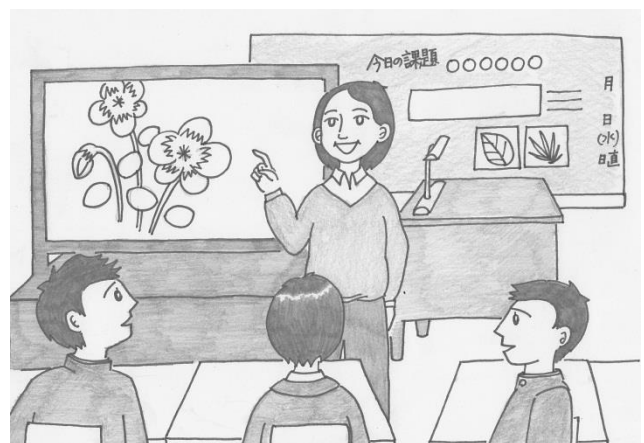


平成 28 年度 川崎市立中学校 学習状況調査 概要



◎ 調査の概要

1. 調査の目的

学習指導要領に示されている各教科（国語・社会・数学・理科・英語）の目標および内容の「基礎的・基本的な知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」について学習したものが、いかに生徒に定着しているかを全市一斉に学年ごとの同一の問題によって調査する。そして、その結果を診断し、今後の学習指導の改善に役立たせる。また、生徒自らが学習状況や学習課題の把握ができるようにする。

2. 調査の内容

○国語・社会・数学・理科・英語

調査の目的に基づき、学習指導要領に示されている各教科の目標及び内容の基礎的・基本的な事項について、各教科の出題範囲に基づいて、全学年を対象とする調査を実施した。

○学習意識調査（生活や学習についてのアンケート）

生徒の生活や学習に対する意識等について明らかにするために、第2学年の生徒を対象とする調査を実施した。

3. 調査の対象

市内全市立中学校の全学年の生徒

4. 調査実施日及び調査対象人数

- | | |
|------------|----------------|
| (1) 調査実施日 | 平成28年11月8日（火） |
| (2) 調査対象人数 | 学校第1学年 9,639 人 |
| | 学校第2学年 9,852 人 |
| | 学校第3学年 9,779 人 |

5. 調査の方法

○国語・社会・数学・理科・英語

各教科の問題は、知識・技能に関する問題と思考・判断・表現に関する問題について出題し、それぞれについて分析を行った。

解答用紙

平成 28 年度 川崎市立中学校学習診断テスト 数学 2 年 解答用紙

※右下の欄に「マスターシール」をはることを。

問	知	技	思判表
問 1	1	/4	
問 2	2	/3	
問 3	3		/2
問 4	4	/3	
問 5	5	/2	/1
問 6	6		/3
問 7	7	/1	/2
問 8	8		
問 9	9	/1	/1
問 10	10	/2	/3
問 11	11		/2

問	知	技	思判表
正答数	/19		/11

<注意> 右のマークは、ぬりつぶしたり、傷をつけたりしてはいけません。

正答数の合計

2016176200000 121 18KW1数2-1

◎ 調査結果の概要

○定着していると考えられる内容 ●課題があると考えられる内容

知識・技能に関する問題

国語

○話題の中心を捉えて聞くこと ●漢字を書くこと

社会

○基本的な資料を読み取ること ●事象について関連付けて理解すること

数学

○連立方程式を解くこと ●式の値を求めること

理科

○グラフに正しく表すこと ●実験を安全に行う上での手順を理解していること

英語

○文を組み立てること ●正しい綴りで書くこと

思考・判断・表現に関する問題

国語

○文学的文章を読解すること ●自分の考えを記述すること

社会

○複数の資料を読み取り関連付けること ●既習事項と関連付けることや時代の流れを捉えること

数学

●文字を用いた式を用いて命題が成り立つことを説明すること

理科

○モデル図を用いて現象を視覚化すること ●実験等のデータを他の資料に適用して考察すること

英語

●つながりのある文章を正しく書くこと

平均正答率

	国語	社会	数学	理科	英語
知識・技能	54.8%	58.4%	50.7%	60.8%	61.7%
思考・判断・表現	68.7%	54.1%	27.4%	60.4%	39.5%
全設問	60.6%	57.0%	42.1%	60.7%	52.0%

◎ 思考・判断・表現に関する問題

1. 国語

条件に合わせて自分の考えを書くことに関する問題

○出題の趣旨

「国語に関する世論調査」を基に敬語が必要かどうかについて自分の立場を明確にし、あとの条件を満たすように考えを記述することができる。

【条件】

- 1 六行以上、十行以内で書くこと。
- 2 段落のはじめは一マス空け、二段落で書くこと。各段落の内容は次のとおりにすること。

① 一段落目は、資料の平成十五年度と平成二十五年年度とを比較し、わかることを書くこと。

② 二段落目は、自分の立場を明確にし、敬語が必要かどうか、理由を含めて書くこと。

【今後とも敬語は必要だと思うか】
(文化庁：平成25年度 国語に関する世論調査)

年度	必要だと思う	ある程度必要だと思う	あまり必要だと思わない	必要だと思わない	分からない
平成15年度	67.8%	28.3%	2.6%	0.7%	0.6%
平成25年度	84.5%	13.6%	1.0%	0.4%	0.5%

問七

次の資料は、「国語に関する世論調査」の結果の一部です。あなたは、敬語が必要だと思いますか。自分の考えを述べなさい。ただし、あとの条件を満たすように書きなさい。

正答例

「国語に関する世論調査」の結果を見ると平成十五年度より平成二十五年年度の方が、必要だと思う人の割合は増えている。また、必要だと思わない人の割合は減っている。私も、敬語は必要だと考える。なぜなら、敬語は相手を尊重する気持ちの表れであり、人間関係を円滑にするからだ。

調査の結果を比較すると、敬語は必要だと思う人の割合が増え、必要だと思わない人の割合が減っている。しかし、私は、敬語は必要ではないと考える。理由は、敬語を使うことで、相手との距離感が生じるからだ。敬語がなくても、人と人とお互いを尊重する意識をもっていれば良好な人間関係は築けると思う。

○授業改善に向けて

正答率は47%であり、資料からわかることを書いたり、自分の立場を明確にして理由も含めて考えを書いたりすることに課題がある。

根拠を明確にして書くためには、記述した文章に自分の考えの根拠が明確に書かれているかを常に吟味することが必要である。

授業改善の手立てとしては、データを比較してわかることを話し合う場面を設定し、何がわかったかを確認する活動を位置付けることが考えられる。そして、自分の立場を明確にし、資料からわかったことを踏まえて自分の考えを記述させ、書かれた文章の交換を通して、考えの根拠の部分について意見や助言を交流することが考えられる。

2. 社会

歴史の大きな流れの把握に関する問題

○出題の趣旨

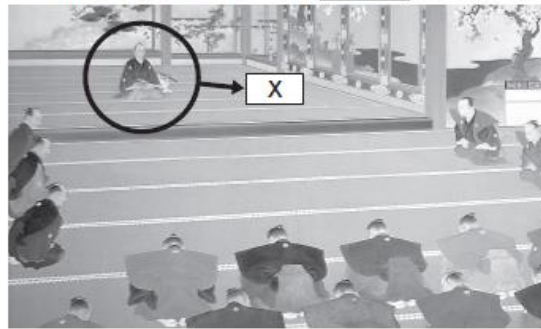
対外関係や国内の状況を踏まえながら、幕末期の社会的事象が起こった順について正しく考えることができる。

問 4 「近代の日本と世界」について、カードⅠ～Ⅳをみて、つぎの(ア)～(オ)の問いに答えなさい。

カードⅢ 横浜に上陸したペリー



カードⅣ 大政奉還をおこなう X



(エ) カードⅢとⅣの間におこったできごとについて、つぎの①～④の文を年代の古い順に並べたとき、3番目にくるものを1つ選び、番号で答えなさい。

- ① 坂本龍馬らの仲立ちによって、薩摩藩と長州藩が同盟を結び、倒幕をめざした。
- ② 薩摩藩士がイギリス人を殺傷した生麦事件をうけて、イギリス艦隊が鹿児島を砲撃した。
- ③ 大老の井伊直弼は攘夷論を唱えた吉田松陰らを処罰したが、かえって反発を強め暗殺された。
- ④ 幕府は朝廷の許可を得ずに日米修好通商条約を結び、自由な貿易を認めた。

正答：② 正答率：32% 誤答例：① 24% ③ 24% ④ 19%
年代の古い順にならべると ④ → ③ → ② → ① となる。

○ 授業改善に向けて

正答率が32%、誤答を選択した率が24%、19%となっており、これらの数値から選択肢の関係性を理解していない状況が見られ、幕末期の社会的事象の大きな流れを理解することについて課題がある。

歴史的分野の目標に「我が国の歴史の大きな流れの理解」があるが、幕末期については、幕府が開国したことと、その政治的及び社会的な影響を理解させ、明治維新の動きにつながることに気づかせることが大切になる。

授業改善の手立てとしては、時代の流れを大きく捉える学習課題を設定し、調べた事実を整理してどのように関連付けられるかを話し合いながら、事象の因果関係を考え、学習課題の解決を行うという学習過程が考えられる。

3. 数学

文字を使った式の活用に関する問題

○出題の趣旨

与えられた説明の筋道を読み取り、式を適切に変形し、その理由を式や言葉で表現することで、その説明を完成することができる。

問3

Aさんは、 $1 + 2 + 3 = 6$ 、 $3 + 4 + 5 = 12$ のように、奇数から始まる連続する3つの整数の和には、どんな性質があるか考えています。いろいろな数で考えてみたところ、「奇数から始まる連続する3つの整数の和は、6の倍数になる」と予想しました。Aさんはこの予想が正しいことを、文字を使って次のように説明しました。

Aさんの説明

n を整数とすると、奇数から始まる連続する3つの整数は、 $2n+1$ 、 $2n+2$ 、 $2n+3$ と表すことができる。

その3つの整数の和は、

$$(2n+1) + (2n+2) + (2n+3) = 2n+1 + 2n+2 + 2n+3 \\ = 6n+6$$

したがって、奇数から始まる連続する3つの整数の和は、6の倍数になる。

このAさんの説明について、AさんとBさんは、次のような会話をしています。



Bさん：「でも、この説明だと6の倍数であるとは言えないよ。」

Aさん：「どうして？」



Bさん：「6の倍数になることを説明するには、 $6n+6$ を変形して、と表す必要があるんだよ。」

Aさん：「なぜ、その形で表す必要があるの？」



Bさん：「なぜなら、」

Aさん：「なるほど！そういうことか！」



(ア)(i)に当てはまる式を書きなさい。

正 答： $6(n+1)$

正答率：36%

誤答例： $6(n+6)$

(イ)(ii)に入る理由を式や言葉で答えなさい。

正 答：(n+1)は整数なので、
 $6(n+1)$ は6の倍数である

正答率：5%

誤答例：6をかけると絶対に6の倍数になるといえるから

○ 授業改善に向けて

正答率はそれぞれ、36%、5%であり、与えられた説明の中で、適切に式を変更し、その理由を言葉や式を使って、説明を完成することに課題がある。

事柄が一般的に成り立つことを説明する際に、文字式や言葉を用いて根拠を明らかにすることができるように指導することが大切である。

授業改善の手立てとしては、6の倍数であることを説明するためには、 $6n+6$ を $6(n+1)$ と変形していることについて、「なぜ $6 \times \square$ の形にするのか」、「なぜ『 $n+1$ は整数だから』という説明が必要なのか」などについて話し合う場面を設定することが考えられる。また、不十分な説明を取り上げ、間違いを修正することを通して、よりよい表現に高めることも重要である。

4. 理科

地震計の記録から必要な情報を取り出し、他の資料に適用して震央を推測する問題

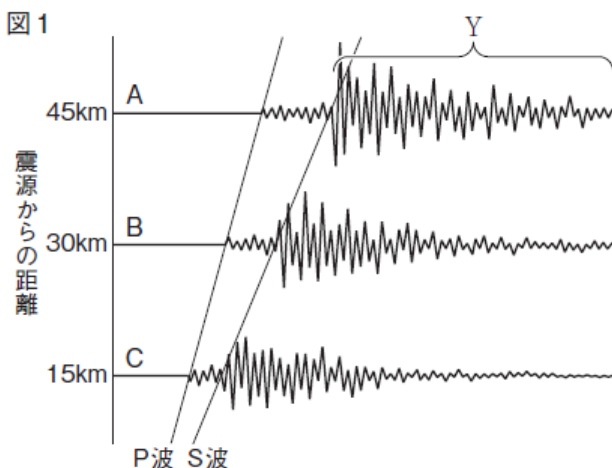
○出題の趣旨

地震計の記録や表から、震央からの距離に関する情報を取り出し、震央との距離と地図上の観測地点を関係付け、震央を特定することができる。

問10 c

〔資料〕より観測地点の初期微動継続時間から推測される震央の位置はどこですか。図2のア～エから1つ選び、その記号で答えなさい。

図1



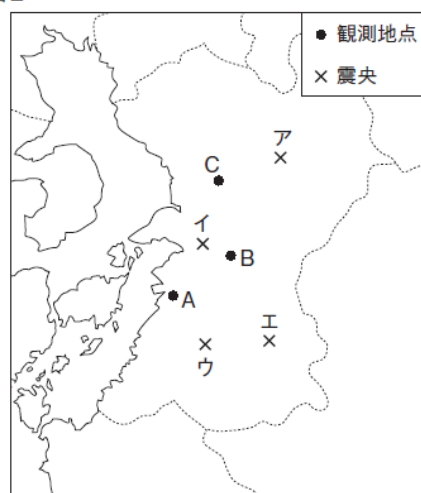
	しんげん 震源から の距離 [km]	しよきびどう 初期微動 けいぞくじかん 継続時間 [秒]
A	45	6
B	30	4
C	15	2

正 答 : ア

正答率 : 65%

誤答 : イ (17%)、ウ (8%)、エ (4%)

図2



○ 授業改善に向けて

正答率は65%であり、複数の資料から「距離」という情報を抜き出せず、他の根拠を基に回答している状況がみられ、グラフと表を読み取ることに課題がある。

グラフや表などの資料から、必要な情報を抜き出し、他に適用する力を育成することが大切である。

授業改善の手立てとしては、同一の地震で得られた複数の地震計の記録を図1のような順に並べてグラフにする活動やグラフから数値を読み取り図2のような表にする活動の設定が考えられる。また、表やグラフの作成の目的を明確にすることにより、その有用性に気付かせることも重要である。

5. 英語

英作文問題

○出題の趣旨

与えられた条件を満たすよう、ねらいに沿って、つながりのある文章を正しく書くことができる。

問9

あなたはこれから「理想の旅行」について発表します。まず、あなたが選んだ行きたい場所を1つ の中に書き、そのあとに下の指示にしたがって英文を3つ以上書きなさい。

- ・それぞれの英文は3語以上で書くこと。
- ・自分がそこに行きたい理由や、どんなことをそこでする予定なのかを含めること。
- ・選んだ場所やものの名称が英語で書けない場合はローマ字で書いてもよい。

Hello, everyone.

I'm going to visit .

It'll be a great trip.

Thank you.

正答例

I'll visit the National Gallery. I want to see Renoir's painting. I want to buy a lot of postcards of his paintings there.

正答率 12%

無答率 21%

○ 授業改善に向けて

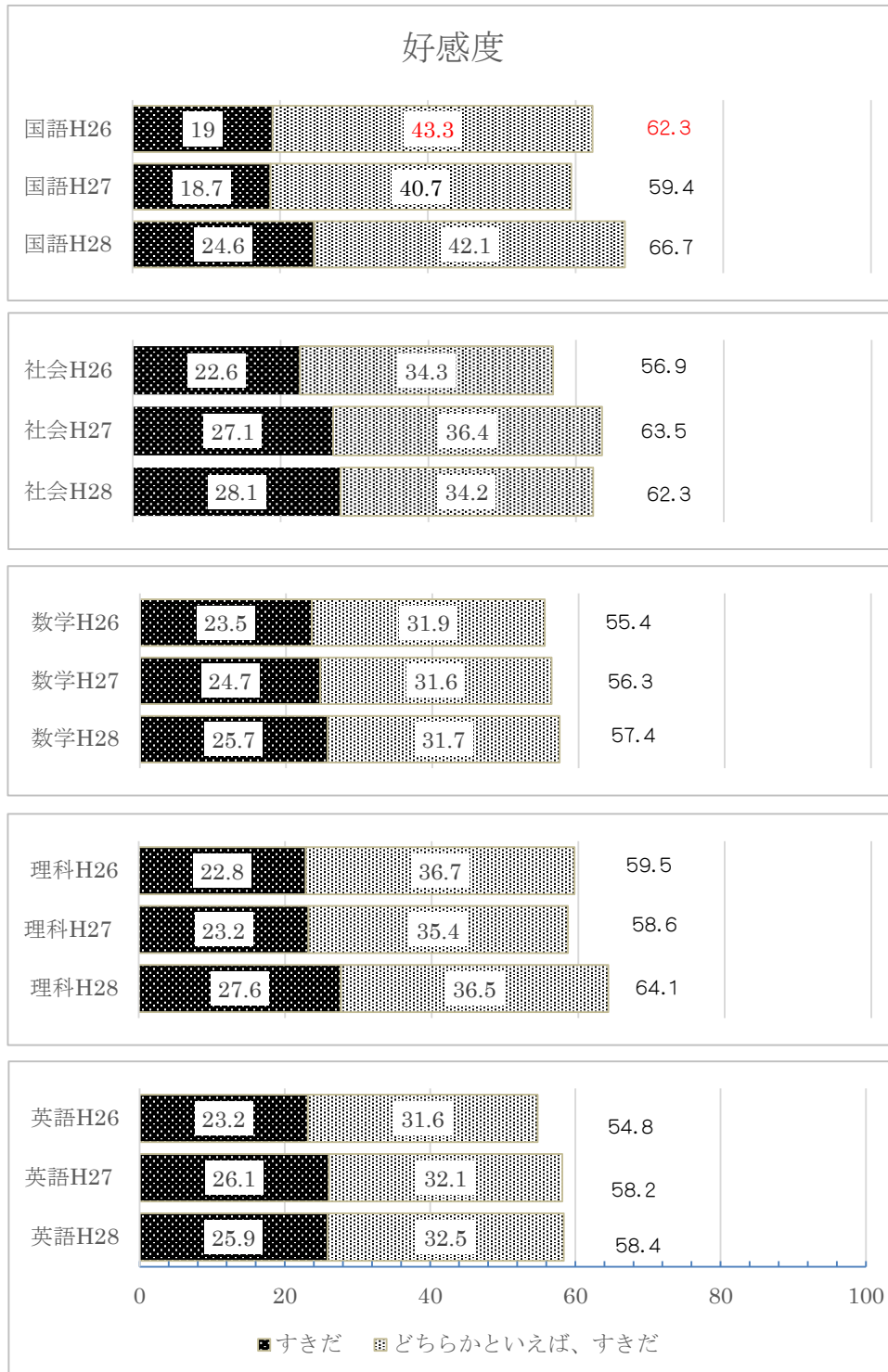
正答率は12%、無答率は21%となっている。教科書の中に旅行の計画を立て、スピーチを行う内容があり、生徒は授業の中で一度取り組んだことのある英作文となっている。そのため、37%の生徒が文のつながりを意識した作文を書くことができた。しかしながら、正答となる判断基準は、「理想の旅行を適切に説明した英文で、文法や語順に誤りがなく、単語のつづりも正しい」ことが求められたため、正答率が低くなっており、語句や表現、文法事項などの知識を活用して正しく書くことに課題がある。

授業改善の手立てとしては、単に、単語や文法事項を取り出して練習を増やすのではなく、場面設定を明確にし、聞き手や読み手を意識した3～5文程度のまとまりのある英文を書く学習を繰り返し行う中で、内容を正しく伝えるために英文の正確さも確認していくことが重要である。また、書く力は個人差が大きくなるが、全員が英作文に取り組めるよう、ペアやグループで英文を確認したり、助言しあったりする協働的な活動を取り入れたい。

◎ 生活や学習についてのアンケートについて

1. 授業に対する好感度、理解度、有用感について

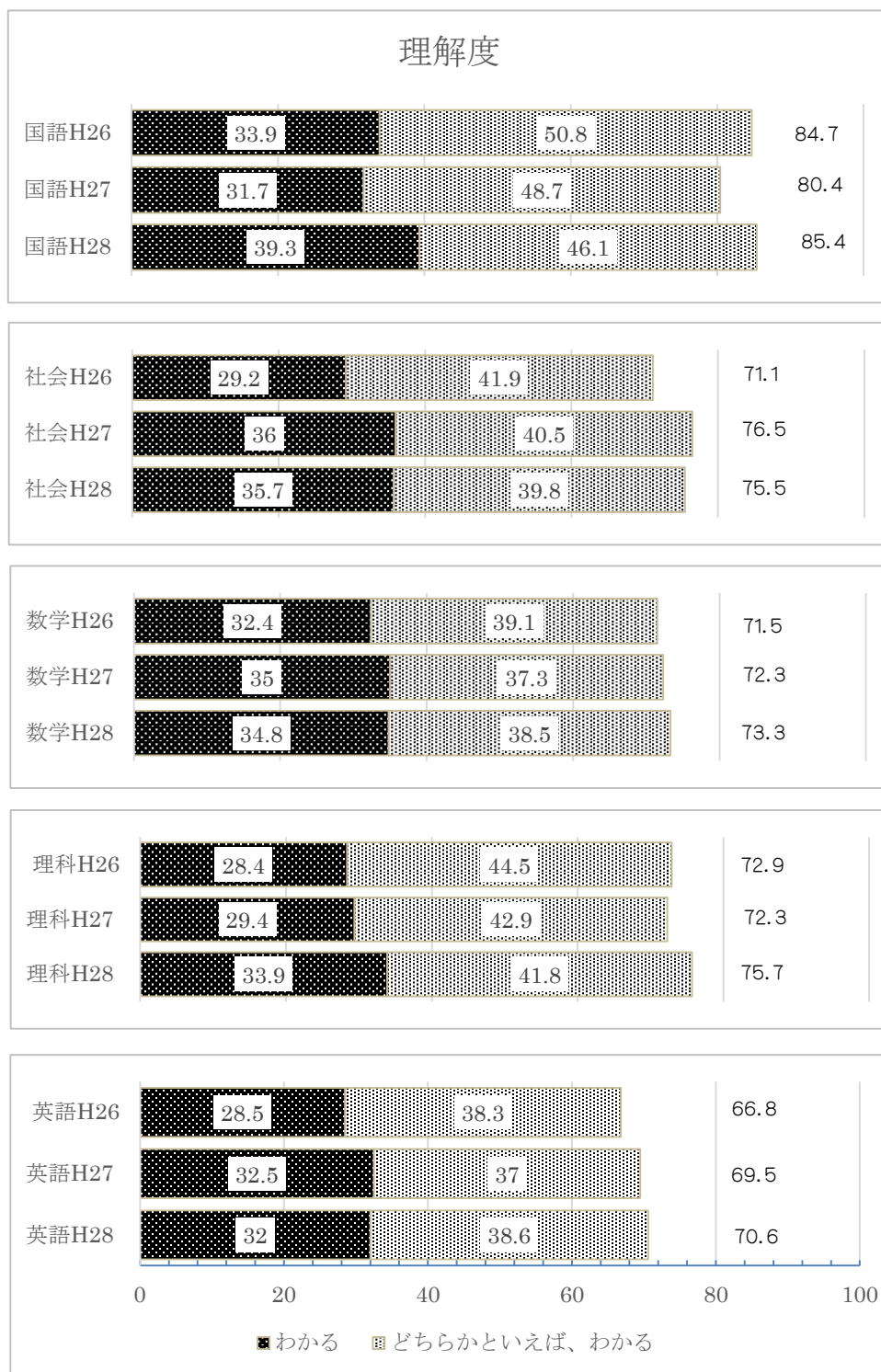
(1) 好感度 「すきだ」「どちらかといえば、すきだ」



○授業の好感度（「すき」「どちらかといえばすきだ」を合わせた割合）が最も高いのは「国語」の66.7%で、以下「理科」（64.1%）、「社会」（62.3%）、「英語」（58.4%）、「数学」（57.4%）となっている。

○過去3年間の各教科の好感度の平均は、「国語」は62.8%、「社会」は60.9%、「数学」は56.3%、「理科」は60.7%、「英語」は57.1%である。

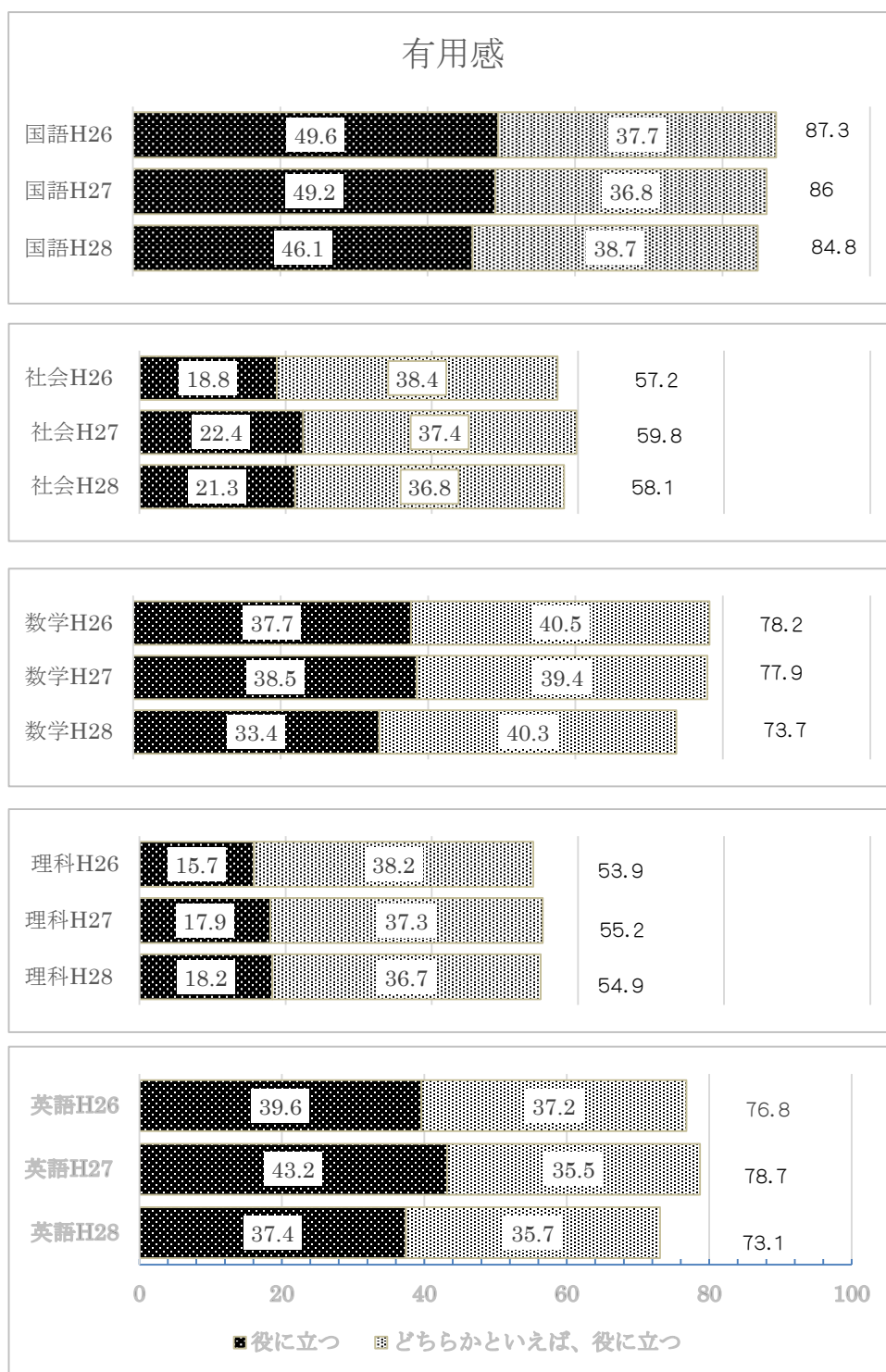
(2) 理解度 「わかる」「どちらかといえば、わかる」



○授業の理解度（「わかる」と「どちらかといえば、わかる」を合わせた割合）が最も高いのは「国語」で85.4%、以下、「理科」（75.7%）、「社会」（75.5%）、「数学」（73.3%）、「英語」（70.6%）となっている。

○過去3年間の各教科の理解度平均は、「国語」は83.5%、「社会」は74.4%、「数学」は72.4%、「理科」は73.6%、「英語」は69.0%である。

(3) 有用感 「役に立つ」「どちらかといえば、役に立つ」

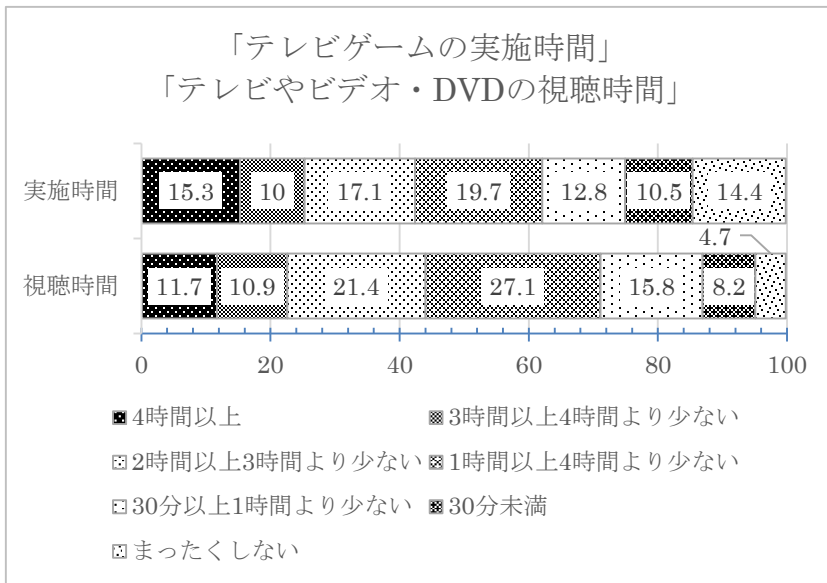


○学習に対する有用感（「役に立つ」と「どちらかといえば、役に立つ」を合わせた割合）が最も高いのは「国語」で84.8%、以下、「数学」（73.7%）、「英語」（73.1%）、「社会」（58.1%）、「理科」（54.9%）となっている。

○過去3年間の各教科の有用感の平均は、「国語」は86.0%、「社会」は58.4%、「数学」は76.6%、「理科」は54.7%、「英語」は75.6%である。

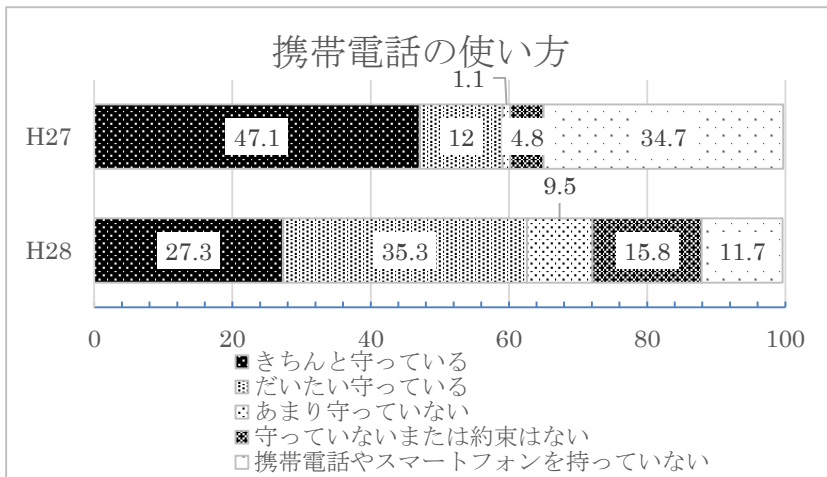
今後ともそれぞれの教科において、学習のねらいを明確にした授業、できるようになりたいという生徒の学ぶ意欲を大切にしながら、きめ細やかな分かる授業づくりを進めていく必要がある。

2. 家庭生活の実態について

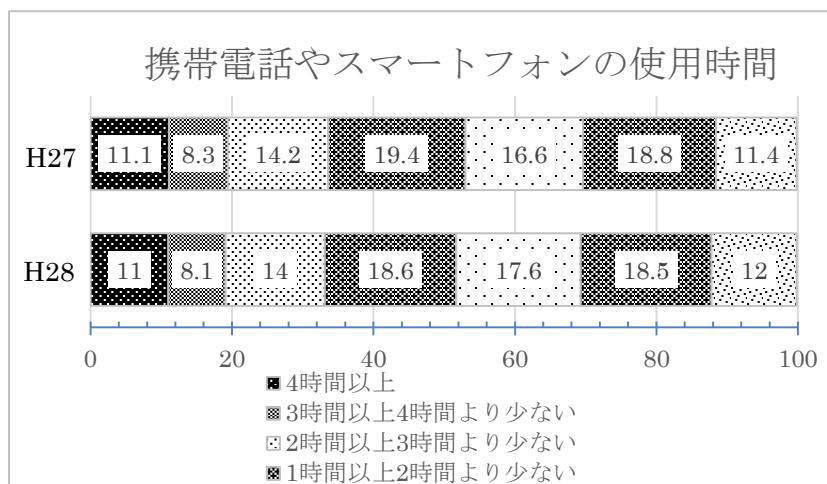


「学校がある日、1日当たりどれくらいの時間テレビゲームをしますか。」では、「1時間以上」と回答した生徒は**62.1%**、「3時間以上」**25.3%**である。

「学校がある日、1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり聞いたりしますか。」では、「1時間以上」と回答した生徒は、**71.1%**、「3時間以上」**22.6%**である。



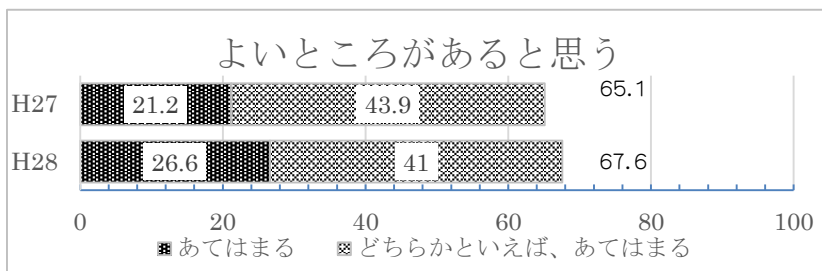
「携帯電話やスマートフォンの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか。」では、「きちんと守っている」「だいたい守っている」と回答した生徒は、**62.6%**である。また、「携帯電話やスマートフォンを持っていない」と回答した生徒は、**11.7%**である。



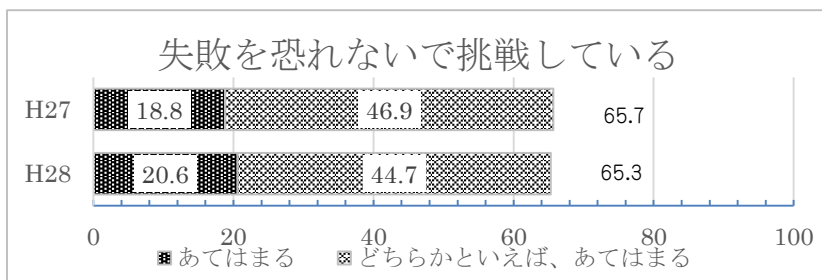
「学校がある日、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか。」では、「1時間以上」と回答した生徒は**51.7%**、「3時間以上」**19.1%**である。

携帯電話やスマートフォンの所有率が高くなったことが影響し、3時間以上使用している生徒の割合が2割近くを占めている。家庭学習の充実が求められていることから、ゲームをする時間や携帯電話等の使い方については、家庭で約束事を決め、守るよう働きかけ、経年での変化や全国調査との関係を見ていく必要がある。

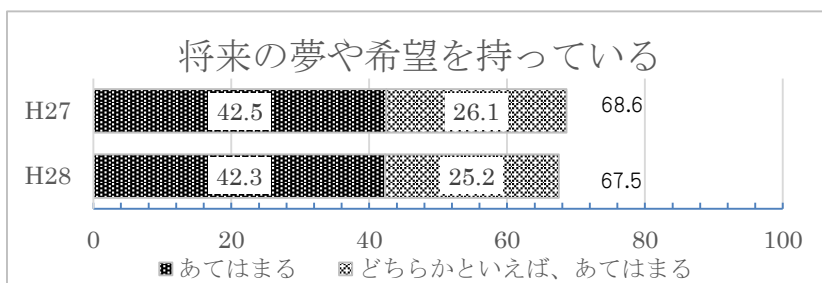
3. 自尊意識・将来に関する意識などについて



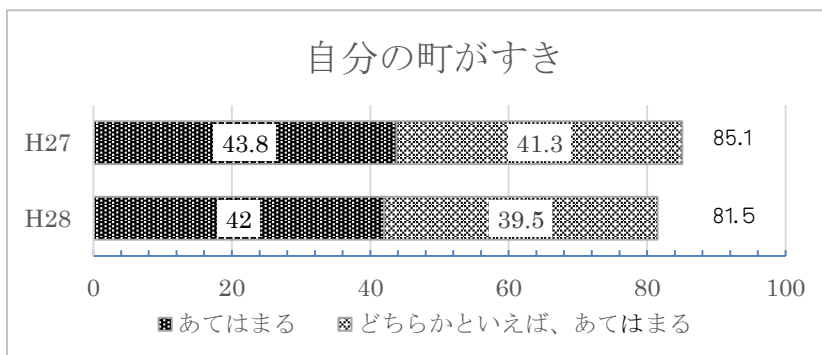
「自分には、よいところがあると思いますか。」では、「あてはまる」「どちらかといえば、あてはまる」と回答した生徒は、**67.6%**である。



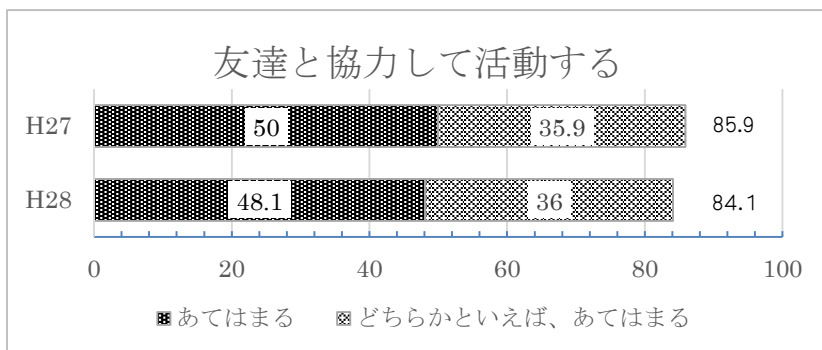
「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか。」では、「あてはまる」「どちらかといえば、あてはまる」と回答した生徒が**65.3%**である。



「将来の夢や希望を持っていますか。」では、「あてはまる」「どちらかといえば、あてはまる」と回答した生徒が**67.5%**である。



「自分の住んでいる町がすきですか。」では、「あてはまる」「どちらかといえば、あてはまる」と回答した生徒が**81.5%**、**昨年度と比較すると、3.6ポイント減少している。**



「友達と協力しながら、活動したり勉強したりすることはすきですか。」では、「あてはまる」「どちらかといえば、あてはまる」と回答した生徒が**84.1%**、**昨年度と比較すると、1.8ポイント減少している。**

自分の町を愛する気持ちや、他者と協力して活動することは、かわさき教育プランにおいても大切にしているところであり、今後とも学校では、これらのことを意識した教育活動を進めていくことが大切である。

◎ 調査結果の活用

1. 主な誤答と分析

大問	小問	正答	正答率	無答率	主な誤答	(%)	授業改善への手立て
1	ア	2	57	1	1	20	鎌倉幕府が滅亡するまでの流れと関わった人物、足利義満が行った対外政策については一応できている。しかし、室町幕府のしくみや社会の変化について、時代背景や社会情勢を読み取れていないので、時代区分と出来事を照らし合わせて確認していく必要がある。また、応仁の乱以降、幕府の力が衰えていく中で、地方の武士や民衆が力を伸ばし、一揆が発生したことや下剋上の世の中へ進んでいったことを資料を通して確認していく必要がある。武士や民衆など、様々な人たちが活躍した中世という時代を大観する学習を行う必要がある。
					4	20	
	イ	3	65	0	1	15	
					2	11	
	ウ	1	39	0	4	26	
					3	21	
	エ	4	52	1	2	18	
					3	17	
	オ	3	37	1	1	29	
				4	22		
	カ	2	36	1	3	23	
				4	21		
	キ	1	24	1	3	33	
				4	25		
2	ア	2	47	1	3	22	織田信長と豊臣秀吉の取り組み、桃山文化の理解については、一応できている。しかし、ヨーロッパ諸国が世界進出をするきっかけとなった新航路の開拓については、やや不十分である。航路を発見した人物と当時の社会情勢の関わりを理解し、資料を通して航路を確認することが必要である。ヨーロッパの世界進出が織田信長と豊臣秀吉の取組に深く関わっていることを気づかせたい。
					4	19	
	イ	3	69	1	2	11	
					4	11	
	ウ	3	63	1	2	20	
					1	11	
	エ	1	74	1	3	11	
				2	10		
	オ	4	57	1	2	15	
				3	15		
3	ア	4	63	1	2	21	江戸幕府のしくみや文化の形成、徳川吉宗の改革については、一応できている。しかし、幕藩体制や対外政策の理解については不十分である。イの正答率は24%で、無答が27%であった。問題の意図を読み取れていないことが要因だと考えられるが、藩の財政と参勤交代が繋がっていない状況なので、参勤交代の内容や幕藩体制の意味を理解することが必要である。また、ウについては、禁教令からオランダ商館を出島に移すまでの時代の大きな流れを確認することが必要である。
					3	12	
	イ	参勤交代に多くの費用がかかり、藩の財政が苦しくなった。	24	27	藩の財政への負担が大きいことに触れていない。		
	ウ	2	38	1	3	30	
					1	20	
	エ	4	57	1	1	16	
				3	14		
	オ	1	50	1	3	22	
				4	20		
4	ア	3	41	1	4	34	開国後の貿易品目や物価の変動、大政奉還に関わった人物については、一応できている。しかし、ヨーロッパの人々が自由や平等などの人権を求めて立ち上がった経緯や各国の社会情勢の理解についてはやや不十分である。産業革命を成し遂げた欧米諸国が、アジアに進出するまでの過程を読み取り、日本の開国に大きな影響を与えたことを時代背景を踏まえて確認する必要がある。エについては、欧米諸国との関わりを踏まえて、因果関係を捉えながら、時代の流れを確認することが必要である。
					2	14	
	イ	1	53	1	3	22	
					2	15	
	ウ	2	75	1	3	11	
					1	9	
	エ	2	32	1	1	24	
				3	24		
	オ	4	70	1	1	15	
				3	9		

各教科では、主任会や教科総会において、調査結果から明らかになった課題や授業改善への手立てを周知するとともに、学習指導要領実践事例集などで具体的な実践例を示している。

各学校では、設問ごとの授業改善への手立てをもとに、子どもたちが「わかる」を実感できる授業づくりに活用している。

2. 個人票



■設問分析表／デジタル答案

大問	小問	領域名	設問の内容	設問別正答率グラフ			正答率 (%)	正誤
				0%	50%	100%		
国語	1	1	聞き取り	内よりの聞き取り	92	100	84	○
	1	21	聞き取り	内よりの聞き取り	92	100	89	○
	1	22	聞き取り	内よりの聞き取り	92	100	91	○
	1	3	聞き取り	内よりの聞き取り	92	100	95	○
	2	1	漢字の読み書き	漢字の読み書き	48	50	48	○
	2	2	漢字の読み書き	漢字の読み書き	48	50	48	○
	2	3	漢字の読み書き	漢字の読み書き	48	50	48	○
	2	4	漢字の読み書き	漢字の読み書き	48	50	48	○
	2	5	漢字の読み書き	漢字の読み書き	48	50	48	○
	2	6	漢字の読み書き	漢字の読み書き	48	50	48	○
	2	7	漢字の読み書き	漢字の読み書き	48	50	48	○
	2	8	漢字の読み書き	漢字の読み書き	48	50	48	○
	2	9	漢字の読み書き	漢字の読み書き	48	50	48	○
	2	10	漢字の読み書き	漢字の読み書き	48	50	48	○
	2	11	漢字の読み書き	漢字の読み書き	48	50	48	○
	2	12	漢字の読み書き	漢字の読み書き	48	50	48	○
	2	13	漢字の読み書き	漢字の読み書き	48	50	48	○
	2	14	漢字の読み書き	漢字の読み書き	48	50	48	○
	2	15	漢字の読み書き	漢字の読み書き	48	50	48	○
	2	16	漢字の読み書き	漢字の読み書き	48	50	48	○
	2	17	漢字の読み書き	漢字の読み書き	48	50	48	○
	2	18	漢字の読み書き	漢字の読み書き	48	50	48	○
	2	19	漢字の読み書き	漢字の読み書き	48	50	48	○
	2	20	漢字の読み書き	漢字の読み書き	48	50	48	○
	3	1	語句	付属語	33	36	33	○
	3	2	語句	修飾・非修飾の関係	33	36	33	○
3	3	語句	漢字の成り立ち	33	36	33	○	
4	1	短歌の鑑賞	内容の理解	67	77	67	○	
4	2	短歌の鑑賞	内容の理解	67	77	67	○	
4	3	短歌の鑑賞	内容の理解	67	77	67	○	
4	4	短歌の鑑賞	内容の理解	67	77	67	○	
4	5	短歌の鑑賞	内容の理解	67	77	67	○	
4	6	短歌の鑑賞	内容の理解	67	77	67	○	
4	7	短歌の鑑賞	内容の理解	67	77	67	○	
4	8	短歌の鑑賞	内容の理解	67	77	67	○	
4	9	短歌の鑑賞	内容の理解	67	77	67	○	
4	10	短歌の鑑賞	内容の理解	67	77	67	○	
4	11	短歌の鑑賞	内容の理解	67	77	67	○	
4	12	短歌の鑑賞	内容の理解	67	77	67	○	
4	13	短歌の鑑賞	内容の理解	67	77	67	○	
4	14	短歌の鑑賞	内容の理解	67	77	67	○	
4	15	短歌の鑑賞	内容の理解	67	77	67	○	
4	16	短歌の鑑賞	内容の理解	67	77	67	○	
4	17	短歌の鑑賞	内容の理解	67	77	67	○	
4	18	短歌の鑑賞	内容の理解	67	77	67	○	
4	19	短歌の鑑賞	内容の理解	67	77	67	○	
4	20	短歌の鑑賞	内容の理解	67	77	67	○	
5	1	文学的文章の読解	心情の理解	63	69	63	○	
5	2	文学的文章の読解	心情の理解	63	69	63	○	
5	3	文学的文章の読解	心情の理解	63	69	63	○	
5	4	文学的文章の読解	心情の理解	63	69	63	○	
5	5	文学的文章の読解	心情の理解	63	69	63	○	
5	6	文学的文章の読解	心情の理解	63	69	63	○	
5	7	文学的文章の読解	心情の理解	63	69	63	○	
5	8	文学的文章の読解	心情の理解	63	69	63	○	
5	9	文学的文章の読解	心情の理解	63	69	63	○	
5	10	文学的文章の読解	心情の理解	63	69	63	○	
5	11	文学的文章の読解	心情の理解	63	69	63	○	
5	12	文学的文章の読解	心情の理解	63	69	63	○	
5	13	文学的文章の読解	心情の理解	63	69	63	○	
5	14	文学的文章の読解	心情の理解	63	69	63	○	
5	15	文学的文章の読解	心情の理解	63	69	63	○	
5	16	文学的文章の読解	心情の理解	63	69	63	○	
5	17	文学的文章の読解	心情の理解	63	69	63	○	
5	18	文学的文章の読解	心情の理解	63	69	63	○	
5	19	文学的文章の読解	心情の理解	63	69	63	○	
5	20	文学的文章の読解	心情の理解	63	69	63	○	
6	1	説明的文章の読解	内容の理解	71	54	71	○	
6	2	説明的文章の読解	内容の理解	71	54	71	○	
6	3	説明的文章の読解	内容の理解	71	54	71	○	
6	4	説明的文章の読解	内容の理解	71	54	71	○	
6	5	説明的文章の読解	内容の理解	71	54	71	○	
6	6	説明的文章の読解	内容の理解	71	54	71	○	
6	7	説明的文章の読解	内容の理解	71	54	71	○	
6	8	説明的文章の読解	内容の理解	71	54	71	○	
6	9	説明的文章の読解	内容の理解	71	54	71	○	
6	10	説明的文章の読解	内容の理解	71	54	71	○	
6	11	説明的文章の読解	内容の理解	71	54	71	○	
6	12	説明的文章の読解	内容の理解	71	54	71	○	
6	13	説明的文章の読解	内容の理解	71	54	71	○	
6	14	説明的文章の読解	内容の理解	71	54	71	○	
6	15	説明的文章の読解	内容の理解	71	54	71	○	
6	16	説明的文章の読解	内容の理解	71	54	71	○	
6	17	説明的文章の読解	内容の理解	71	54	71	○	
6	18	説明的文章の読解	内容の理解	71	54	71	○	
6	19	説明的文章の読解	内容の理解	71	54	71	○	
6	20	説明的文章の読解	内容の理解	71	54	71	○	
7	1	作文	条件作文	47	47	47	○	

問題番号	正答	誤答	合計
1	0	0	0
2	3	2	1
3	1	3	4
4	1	6	7
5	3	0	3
6	1	13	14
7	1	0	1
合計	10	34	44

冬休み前に、教育相談や三者面談の機会を利用して、個人票を返却し、一人一人の生徒が学習に取り組む態度や家庭生活での学習のあり方を改善することに活用している。

また、学校や教員が一人一人の生徒の学習状況を的確に把握することにより、指導方法や教育課程の検証・改善を図ることに活用している。